

ハイタカ

Accipiter nisus

タカ科・夏鳥（一部留鳥）

名前の由来

ハイタカは「はしたか」が転じたもので、疾い鷹、嘴の鋭い鷹、波斯（はし：ペルシャの意）の鷹などの説がある。タカは高く飛ぶからという説、猛き（たけき）鳥という意味からという説などがある。

漢字名：鷯（よう、はしたか）、灰鷹



ハイタカ

特定種

国レッドリスト（2007）：準絶滅危惧（NT）

北海道レッドデータ：絶滅危急種（Vu）

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）オス31.5cm、メス39cm。両翼を開いたときの差し渡し長さ62～76cm。オオタカに似ている。

オスはハトくらいの大きさ。成鳥の背面は暗青灰色。白い眉斑（眉のようなもの）があるがオオタカほど顕著ではない。下面は白く、オレンジ褐色の細い横じまもようが一面にある。

メスはオスよりひとまわり大きく、上面は灰褐色、下面は白色の地に褐色の横じまもよう。

幼鳥は背面が褐色、のどには褐色の縦じまもようがある。

飛び方：翼が幅広で短く、急減速・急旋回を自在にこなし、林内でも獲物を追って機敏に飛び回ることができる。

開けた空間では羽ばたきと滑空を繰り返して直線的に飛ぶ。翼を広げて、輪を描くように高い空を飛ぶこともある。

類似種と区別点：オオタカ、ツミ。

オオタカに似ているが、オオタカがカラス位の大きさであるのに対して、ハイタカはハト位。オオタカは大きいぶんだけ羽ばたきは遅い。

ツミは更に小型で背面の色が濃く、眉斑（眉のようなもの）はととても不明瞭。遠くからの識別は難しい。



撮影：飯嶋良朗

ハイタカ。胸や腹の横スジもようが褐色なのがメス



類似種オオタカ。背中が黒っぽく、目の上がくっきり白い。

生息環境・分布

平地から山地の原生林やカラマツ林などに生息で繁殖し、付近の開けた環境で狩りをする。

分布：ユーラシア大陸の温帯・亜寒帯で繁殖。亜寒帯のものは南下して越冬する。

日本では本州以北で繁殖し、留鳥。一部は冬季に暖地へ移

動する。

北海道では夏鳥で一部が留鳥。山地や平野部の森林に生息する。

十勝では夏鳥で一部が留鳥。平地～亜高山帯の樹林

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
本州以南 (越冬期・通年)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
繁殖					■	■	■	■	■	■	■	■
一部越冬											■	■

食性・他生物との関わり

主にツグミくらいの大さきまでの小～中型の鳥類を捕食する。ネズミ類、リスなども捕食する。

オオタカなどと同様に空中か地上で獲物を背後からあるいは側面から襲う。林内でも獲物を追って、急減速・急旋回

など敏捷に飛び回る。(→興味深い話の項参照)

捕食者であり、食物連鎖の頂点にたつ種のひとつ。成長してしまえば他の生物に襲われることはあまりない。

繁殖生態

本州の記録では産卵期は5月(北海道では5月末か)、一夫一妻で繁殖する。つがいは毎年新たに形成されるが、繁殖地近くで越冬したオスメスは続けてつがいになることが多いという。

つがいにならばりを作る。ヨーロッパの例では先にメスが営巣地に着きなわばりを作り、2週間ほどしてから巣作りを始めるという。求愛時には波形の飛行曲線を描いて飛ぶという。(→興味深い話の項参照)

巣はオスメス共同で、平地から山地の森林やカラマツ林な

どで、樹冠に近い部分に枝の又に、木の枝を主材にして皿形の巣を作るという。

4～5個の卵を産み、メスが卵を抱く。オスはメスが出かけている間、しばしば巣を訪れ、転卵をしたり巣材を整えたりするという。

32～34日でヒナがかえる。ヒナへの給餌はメスだけが行き、巣の外でオスからメスへ餌を受け渡すという。24～30日でヒナは巣立つ。

興味深い話

■「ハイタカ(はしたか)」は本来メスに当てた名で、オスは「コノリ(兄鷲)」といったのだという。

■標識調査では生存年数が5年10ヶ月の記録がある。

■千葉で3月に一時捕獲され標識(番号や記号を打った足輪など)をつけられたハイタカが、同じ年の5月に稚内で死体で発見された例がある。

■ハイタカとツミの足は、前向き3本の足指のうち、内側の足指が異常に長く、指だこが発達していて、獲物を捕まえやすくなっているという。

■一般的にワシやタカの仲間ではメスがオスより大きい、ハイタカやオオタカで特にはっきりしている。これは狩りの難しい鳥を餌としていることと関係があるらしい。

■メスの体重はオスの2倍あり、メスの方が大きめの鳥を餌にするという。

■メスの方がオスより大きく、ヒナであっても最後はオス親より大きくなる。このためメスヒナに餌を与えるときオス親はビクビクしているように見えるという。

■冬には、餌台に集まる小鳥を狙って、住宅地にも時々飛来する。



ハイタカ。冬、帯広市街地街路樹に飛来したもの

配慮事項

平野部の丘陵やカラマツ林などで繁殖をしていることもある。むやみに近づくと、繁殖に悪影響を与える可能性がある。

参考文献

- 「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理学研究室 2000
「野鳥ボックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「名前といわれ 日本の野鳥図鑑① 野山の鳥」国松俊英、借成社 1995
「鳥類標識調査報告書」(財)山階鳥類研究所、1996
「動物名の由来」中村浩、東京書籍 1981
「平成7年度 鳥類観測ステーション報告」環境庁 1996
「北海道のクマタカとオオタカ」藤巻裕蔵 編集、北海道猛禽類研究会、1999

「図鑑 日本のワシタカ類」森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男、文一総合出版 1995

「日本動物大百科 第3巻 鳥類I」日高敏隆監修、平凡社 1996

「鳥のおもしろ私生活」ピッキオ 編著、主婦と生活社 1997

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978

「Eagles, Hawks & Falcons of the World」L.H. Brown & D. Amadon, Country Life Books 1968 (Revised edition, The Wellfleet Press 1989)

「The Sparrowhawk」I. Newton, T. & A.D. Poyser 1986

「Handbook of the Birds of Europe, the Middle East and North Africa—The Birds of the Western Palearctic Vol. II」S. Cramp & K.E.L. Simmons (eds.), Oxford Univ. Press 1980

東條一史 (1992) ハイタカの営巣行動と採食習性. 日本鳥学会 1992年度大会講演要旨集: 43.

東條一史 (1993) わかってきた日本の生態—富士山麓・ハイタカ 観察記録. アニマ、246: 58-60.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原) 鳥類
ワシ・タカ類
樹林